

自信をもつことの大切さ

南魚沼市立塩沢中学校

二年 日熊 葵

皆さんはどんな性格だろうか。私は「誰にも負けたくない！」という性格だ。私は、「誰にも負けない」という理由で通っていた。しかし、年齢が上がり、水泳の技術が向上するにつれ、コーチから求められるものが大きくなるとともに、ある大きな目標をもつようになった。全国大会に出たい。世界で戦える選手になりたいという目標である。私はその目標を追いかけ、今も家での筋トレを欠かさず、日々練習を積んでいる。

私の性格は「誰にも負けたくない！」という性格のため、他の人がやっていたいのであろうことまで挑戦することと、プラスアルファ

の努力を心がけている。周りとは、周りがやっ
てはならないと考えたからだ。私はそんな、
プラスアルファの努力を周りと共に共有したく
ないと思っていた。周りも同じようにプラスア
ルフアの努力を始めたなら、差をつけること
が難しくなってしまう。そう考えると不安だ
ったからだ。
しかし、その考えは兄の先輩の言葉によっ
て一八〇度変わった。
「常に自分のベストを更新し続ければ、自然
と周りより記録がよくなっている。」
という言葉だった。この言葉から私は、自分
の意思を確かにもち、自分の目標から目を背
けないという強い志を感じた。その時、私は
周りとは差をつけることばかり気にしている自
分が頭に浮かんだ。そして、
「私が周りを気にしてしまふのは、負けず嫌
いだからという理由より、自分に自信をもて
ていないからだ。」

ということに気付いた。私は今まで、周りの
ことばかり気にして不安になり、レースで一
〇〇%の力を発揮できないことが多くあった
自分の目標だけを追うのではなく、周りとプ
ラスアルファの努力を共有し、さらに新たな
プラスアルファを始めれば、自分も周りも成
長でき、進化できる、ウィンウィンの関係に
なれるのではないか。また、みんなが自分と
全く同じことをするとは限らないし、できる
とも限らない。だから今私にできることは、
自分に自信をもち、夢、目標に向かって自分
を信じて突き進むことだと気付くことができ
た。
今までの競技人生を振り返ると、悔しくて
泣いたレース、ベストが出たり、入賞したり
して、笑顔で終われたレースなど、様々なレ
ースがあった。その中でも、自信をもって挑
んだレースでは、必ず良い結果がついてきた
自信という字は「自分を信じる」と書く。自
分を信じてレースに挑むには、それ相応の努

力、練習を積みま
なく、てはなら
ない。だから私
は今日も泳ぐ。「誰にも負けない」が達成で
きるその日まで。